

---

# もしも、叶わぬ恋が叶うとしたら、あなたは.....？

Sorairo 光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もしも、叶わぬ恋が叶うとしたら、あなたは……？

### 【Nコード】

N6130F

### 【作者名】

Sorairo 光

### 【あらすじ】

時は2×××年。お手伝いロボやさまざまなロボが誕生し、最も人間に近いロボが製造されるようになった。主人公のユウヒはもう一人のユウヒに出会う。これってどーなってんの？？的なストーリー

！  
♪

俺は人間だ。

これからそう。

それはずっと変わらない。

変わるはずもなく。

あたりまえ。

そうだろう？

樹妓弥きぎや  
雄飛ゆうひ

年18。

性別♂。

現状。

ただ今、彼女と同居中。

そう。

俺には彼女がいる。

大好きな彼女。

名前は吉本 樹百合 ヨシモト キュリ。

俺のことをとても大切にしてくれていて、俺も大切に思ってる。

そして、将来、結婚したいとも考えている。

樹百合。「雄飛？どーしたの？」

雄飛。「いや。なんでもない。」

樹百合。「もー。雄飛はあ。そーやっていつつも私を心配させるう  
！」

そういつて、俺にキスをした。

やさしく、暖かく、小さなピンク色の唇。

白くきれいな肌。

少し赤毛の交じったやわらかく、少しウェーブした髪。

すこし小さめの胸と背。

細い手足にウエスト。

樹百合の全てが好きだ。

樹百合をめちゃくちやにしてもまだ足りぬくらい。

それぐらい好きだ。

でも、言葉には表せない。

好きなのに。

何かが邪魔して言えなくて。

心配事だつて、弱い樹百合に心配させたくなくて。

だから、いつつも樹百合がどうしたの？って聞いてくるんだけど。

樹百合に心配事増やしたくないし、樹百合のこと、大事に思ってるから言えない。

でも、樹百合は、「心配事や不幸なことは分け合おう？話してくれないことが私にとって一番辛いよ。」って。

ほんと。

男と女の作りはどこまで違うんだろう？

違うのは体の作りだけじゃない。

頭の作りさえ何もかもが違ってくる。

ほんと、女って分からないよ。

ある日、俺そつくりの人間と出会った。

樹百合。「あれ？」

「あ。やつぱ？樹百合。久しぶり。」

樹百合。「ユウヒ！」

はっ？ユウヒ？雄飛って俺だろ？

樹百合。「いつかえってきたの？」

ユウヒ。「先週。で、その隣にいるやつは？」

樹百合。「雄飛……。」

男は一瞬は？と言った表情をしたが、すぐに状況が飲み込めたらしく、樹百合にアドを渡して去っていった。

俺は相変わらず状況が飲み込めない。

どおなってるんだよ？

同姓同名。同じ顔に同じ声。同じ体格。

樹百合は、日に日に俺から離れていった。

携帯ばかりを見つめる樹百合……。

ある日、樹百合は俺に言った。

樹百合。「さよなら。偽雄飛。私、雄飛と付き合っから。」

俺は反発した。

訳が分からねえ。

俺が反発したことに樹百合は驚いた。

「なんでよ！？あんたロボットでしょ？自分の感情とかまさかあるわけ！？」って……。

俺が。

ロボット……？

俺                      ロ                      ボ                      ツ                      ト                      .                      .                      .  
?

あの。

鉄の塊か？

あの。

何の感情も抱かない？

冷たく、

固い。

ただの。

鉄の塊？

ときは2×××年。

流行っているのは。

ロボットカップル。

パーツを自分で選び、気に入ったロボットを自分の彼氏、彼女にするという。

ロボットは、こんな感情豊かに表現できない。

今だってほら。

作り笑顔。

作られた一定の感情しかないから、俺はロボだと判断してきた。

俺はこんなにロボと違うのに。

俺もロボ？

あそこに飾られてるのと同じ？

あそこに働いているのと同じ？

あそこで作られた笑いをしているのと同じ？

皮膚だってこんなにやわらかいの？

鉄の塊？

ウソだ。

ウソだ。

ウソだ。

ふらりとよった人間ロボ製造店。

そこにあっただのは。

そこにあっただチラシにはこう書かれていた。

「あなたの恋、応援します！たとえ叶わぬ恋でも、ロボなら大丈夫！好きなパーツを組み合わせ、好きな言葉を言わせるようにプログラムします！」

値段は高いメイドロボよりさらに高い値段がついている。

俺はココで作られたのか……？

何で俺は生まれてきた？

本当に俺は必要だったのか？

そして、数カ月後……。

ピピピピッ

ケータイが鳴り、「あ。もしもし雄飛？ちよつとさあ……？雄飛の愚痴聞いてよお。」

懐かしい声と共に聞こえた自己中な内容。

俺は速答した。

「嫌だ。確かに俺はロボットだ。だけど、人の気持ちなら知ってるし、どこのロボよりも人間に近いんだよ！俺はっ！」

そして一方的に切った。

それからしばらくして、ロボットカップルは製造中止となった。

今はもう。

俺もあいつ。

モトカノを忘れるだけだ――。

アナタ モ モシ、 カナワヌ コイ ガ カナウトスレバ ソレ  
ガ ロボ デモ、 カナエヨウト シマスカ？

Yes ト、 コタエタ ヒト ハ、 タトエ ソノロボガ ニン  
ゲンノ カンジョウヲ モチアワセテイタ トシテモ。 ロボヲ  
キズツケラレマスカ？ カンタンニ ステラレ マスカ？

オレハ ニンゲン ダト。

シンジテイタノニ．．．。

（後書き）

人間は。。。と決め付けたような見方を主人公はしていますが、気にしないでください。もともと設定上そのような感じになってしまっただけです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6130f/>

---

もしも、叶わぬ恋が叶うとしたら、あなたは.....？

2010年11月24日10時03分発行